

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● E-mail: ga-tpc@ginza.co.jp

● このNEWSLETTERは、銀座通連合会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています●

5月30日、教文館9Fウェンライトホールにて、「銀座の街並みを考える」5として、シンポジウム「銀座への大いなる期待」が開催されました。朝日新聞編集委員で

建築評論家の松葉一清さんのお話にて、120人以上の方々が集まりました。以下に内容をご紹介します。



銀座の街並みを考える

5

銀座への大いなる期待

銀座の意志とは何か

松葉一清さんの講演タイトルは「銀座への苦言と期待」。

銀座はかりでなく国内外の商店街が現在かかえている問題は、20世紀の都市計画全体の問題にかかわっています。そして近代都市計画は最初から、商業施設についての位置づけを欠いており、商売をする人や買っ人の視点、顧客満足の考え方にたった計画はないのだ、ということです。しかし実際問題として、商業都市はどんどんひろがる一方、モータリゼーションのなかで、郊外に消費の場所がひろがっていき、都心が空洞化しています。そして、インターネッ ト・オークションがどんどん力をもち、日常の買い物はコンビニですませ、ショッピングモールは「無料で一日を過ごせる場所」となってしまう傾向を指摘する研究者もいるのです。

そのなかで、銀座はまたいつまで残れるのでしょうか？ ここで松葉さんはウィーンのケルトナーを例にあげて、まさに、ちょっと立ち止まの休めるしゃれた場所、超一流の商店街のなかでも安心な「ローラー

飲める場所が必要であり、しかもそれが風景にとけ込み、美しい場所となっていることが大事だと指摘しました。成熟した大人の表現としてのショーウィンドウ・デザインやオープン・カフェなども写真で紹介しました。

商店街・銀座の主体性とは

また、ロンドンのリージェント・ストリートが行っているキャンペーンを例にあげ銀座はどういうまちにしたいのか伝わってこないの、なんらかの、まちとしてのメッセージを発信すべきではないかと提言されました。やりたいことを実現するには行政とのやりとりも大変ですが、それをやり遂げて欲しいこと、また、これまで商業に重きを置かなかった近代都市の価値観の発想をかえて、商業に携わる人材を育てることにも力を入れるべきだし、人と人の出会いの生まれるカフェもどんどん失われているので、人のつどえる場を有機的につなげていくことが大切だと強調しました。

後

半のシンポジウムでは、都市プランナーの豊原敬さんを司会に、三枝進さん（ギンザのサブプロ社長）が、「銀座はアジア的な都市として、矛盾や多義性に満ちた魅力をかかえながら、これからどうしなければいけないか。銀座としての意志を発信していきたい」と語り、菊地健吾さん（銀座くのや八代目）は、「銀座をつくってきたのは諸先輩方とお客様だが、実はまちそのものが生きている。いつも革新性をもっていたからこそ継続してきたこのまちを、うまく成長させていきたい。そのためにも銀座街づくり会議にみなさんの意見を寄せてほしい」と語りました。

そして、松葉さんは「銀座の価値をほんとうにわかっている人が、どれだけいるのか。そして商店街は誰のためであり、誰が主体性をもってまちを動かしていくのか」と提起し、再開発問題にしてもユーザーの立場に立って、じつ々の話し合ったいと、銀座の底力に期待を寄せました。

ビデオ貸し出し

「ISS」のシンポジウムビデオ貸し出しのご案内です。
ぜひ社内研修等に利用したいです。
ぜひ町会や各店舗での勉強会などにお役立ちください。

※お問い合わせは、銀座街づくりの会議まで。
(頭)に連絡先がのっています。

※議事録を作成しております。ご希望の方は、ぜひお申し込みください。もし少々お待ちください。